秋田県衛生科学研究所年報　No.29　115～117（1985）

秋田県における乳幼児事故調査

伊藤玲子*　大泉哲子**　塩谷良子***
相沢弘美****

Ⅰ　目　的

事故死が幼児の死亡原因に占める割合は，本県においても昭和56年の51.8%から58年の61%（1～4歳）と年々上昇しているが，その実態を把握している資料はきわめて少ない。本調査は秋田県の乳幼児事故についてその実態と保護者の意識の両面から調査し，児童の健全育成の資料を得ようとするものである。

Ⅱ　調査方法及び対象

平地農村の1町と7保育所（5市2町）の乳幼児809名を対象に昭和59年4月から5月（春期），8月から9月（夏期），12月から60年1月（冬期）の3回にわたり，それぞれ1週間の事故状況と保護者の事故に対する意識をアンケート方式により調査したものである。保育所児は日中の所内と家庭の両面について記載を求めた。

Ⅲ　調査結果

A　事故の発生状況

回収率100%であるが記載不備を除き4月～5月が764名，8月～9月が798名，12月～1月が753名である。

1　事故発生数は0歳から6歳までの季節別合計延2,315名についてみると593件（25.6%）である。

2　年齢別では3歳児が133件で調査延数の32.5%と他の年齢より有意に高い。（P>0.01）

3　性別では男子が28.4%，女子が22.7%で男子が有意に高い。（P>0.01）

4　季節別では全年齢に対し，冬期が18.5%，春期30.4%，夏期27.8%で冬期が明らかに低い。

B　保護者の意識について

調査実数803名の回答者は父親67名（8.3%），母親716名（89.2%），父と母2名，祖父3名，祖母3名，NA4名である。

10項目のアンケートより次の5項目について前述の実態と比較してみた。

1　事故発生場所（**表1**）は、「居間」と「道路」で49.2%であり，実態とほぼ共通している。

表1　事故の発生場所　（%）

順位	保護者の意識から		実態から	
1	道路	(33.0)	居間	(25.0)
2	居間	(16.2)	道路	(19.4)
3	階段	(9.5)	保育所等	(16.0)
4	広場	(7.7)	庭	(8.8)
5	台所	(6.1)	広場	(6.6)

2　事故の種類（**表2**）は「すりきず」「打撲」が1～3位までの順位を占めており意識と実態にあまり差がないが，実態の「やけど」は冬期の女児に多くみられたもので注目したい。

3　事故の原因（**表3**）は「子どもが何をしていると

表2　事故の種類　（%）

順位	保護者の意識から		実態から	
1	すりきず	(48.7)	すりきず	(48.6)
2	きりきず	(15.5)	打撲	(20.4)
3	打撲	(15.1)	きりきず	(14.5)
4	交通事故	(4.3)	その他	(6.6)
5	NA	(2.7)	やけど	(4.4)

表3　事故の原因　（%）

順位	保護者の意識から	実態(何をしているとき)
1	三輪車等（26.9）	遊んでいるとき（72.7）
2	その他（10.7）	その他（9.4）
3	ストーブ（10.4）	わからない（6.5）
4	おもちゃ（9.8）	火にあたっているとき（2.8）
5	自動車（7.4）	けんかをしているとき（2.8）

* 秋田県衛生科学研究所　** 秋田県社会福祉研修所　*** 秋田県神岡町　**** 社会福祉法人白百合保育園

きか」の実態と対比してみると，保護者は「三輪車」や「ストーブ」が危いとみており，実態は「遊んでいるとき」遇然におきている。

4　事故のおこりやすい時間帯（表4）について保護者は「関係ない」とみているが，実態は昼43.5%，晩29.8%，朝18.7%発生している。

C　その他

1　治療状況（表5），事故発生時の同伴者（表6），事故防止の可能性（表7）についてみると，家庭での治療が54.6%，同伴者と共にいた時が68.4%，今回の事故防止の可能なもの39.1%，不可能と思われるものが21.2%である。

2　保護者が子どもの姿をどうとらえているか，2歳以上の子どもの特徴（表8）についてみると，活発で動作はすばやいが落着きがない，又，物事に対して積極的で好奇心は強いが神経質なところもあってきかん坊であ

表4　おこりやすい時間帯　(%)

時間帯	保護者の意識から	実態から
朝	(2.7)	(18.7)
昼	(26.3)	(43.5)
晩	(13.1)	(29.8)
関係ない	(46.7)	
わからない	(4.9)	(8.0)
NA	(6.3)	

表5　治療について

回答	%
放っておいた	31.5
家庭で治療した	54.6
医者にかかった	4.6
入院	0.2
その他	9.1

表6　事故時点の同伴者

回答	%	
ひとりだけ	15.9	
友だち	21.8	68.4
母	19.2	
兄弟姉妹	16.5	
祖父母	6.2	
父	4.7	
わからない	5.9	
その他	9.8	

表7　事故防止の可能性

回答	%
思う	39.1
思わない	21.2
わからない	38.6
NA	1.1

表8　子供の特徴

項目 ＼ 性別 / 回答	男 (%)			女 (%)		
	＋（肯定）	△（どちらでもない）	－（否定）	＋（肯定）	△（どちらでもない）	－（否定）
活発	66.3	23.8	5.2	65.9	23.6	5.7
動作がすばやい	45.6	32.9	15.7	37.8	39.5	17.5
身体が丈夫	55.0	26.3	12.4	54.8	27.4	12.1
落着いている	16.8	31.5	45.9	22.2	39.7	33.4
注意深い	30.4	37.0	26.5	31.5	45.5	16.4
あまり泣かない	28.7	27.6	38.7	23.6	33.7	38.6
自分でやりたがる	55.5	17.1	22.7	62.2	22.5	10.9
好奇心が強い	66.9	23.2	5.2	63.0	28.2	4.1
のんびりした性格	19.3	41.2	33.4	18.6	45.5	30.4
おとなしい	13.5	32.9	47.5	13.4	41.9	38.7

（注）各項のNA（%）を除く。

るといった傾向が挙げられている。

Ⅳ まとめ

乳幼児809名の事故の実態並びに保護者の意識の調査から

① 1週間の事故発生率は延総数の25.6%である。

② 季節別では冬期が18.5%と低く，性別では男子が28.4%と高い。

③ 保護者の意識と実態の関連では，事故の発生場所，種類，時間帯について両者はほぼ同様の傾向がみられた。